

沖縄県立中部病院泌尿器科の医療体制の強化及び充実を求める意見書

沖縄県は糖尿病等の生活習慣病による腎疾患が多く、2019年日本透析医学会統計調査報告書によると、透析患者数は4,566人となっており、全国でも多い県となっている。

沖縄県立中部病院は中部医療圏内の基幹病院であり、県民の命を守るセーフティーネットとしての役割は大きく、経済困窮者に対しても分け隔てなく高度な医療・質の高いサービスを提供している。また、多くの離島を抱える沖縄の救急医療、他院で診ることが困難な重篤な患者に治療を行う民間病院等と密に連携し、地域医療の要としての役割を担っている。

中でも、泌尿器科は地域がん検診連携拠点病院として、腎臓がん、尿路上皮がん、前立腺がん、精巣腫瘍などの診療を行い、尿路結石や前立腺肥大症などの良性疾患の診療、透析をしている患者さんへの生態腎・献腎移植を実施しており、泌尿器科救急疾患についても緊急センターと連携し診療している。

加えて医師の仕事は、中部病院での現場仕事だけに止まらず、南部、宮古、八重山等離島を含めた広範囲に渡る医療支援、医師の指導にも当たっており、業務内容は多岐に渡る。

同病院泌尿器科は、現在、医師2名体制で外来、入院、緊急外来及び手術に対応しているが、過酷な労働環境で十分な休日が確保されておらず、また、令和4年4月から1名減員となる予定であり、医師にさらなる負担が強えられることは明白である。

また、沖縄県においては、泌尿器科の標準治療となったロボット支援手術も全国で唯一導入されておらず、医師の負担軽減が図られないだけでなく、充実した医療の提供や後進の育成も困難な状況である。

このまま十分な人員確保、設備投資をしなければ現場は疲弊し、患者の治療が行えない状況に陥らないためにも、県が責任をもって対策に取り組むことが必要である。

よって、本町議会は、町民及び県民が安心して医療サービスを受けられるよう、下記の事項を速やかに実現されるよう強く要望する。

記

- 1 沖縄県立中部病院の泌尿器科及び腎臓内科の医師の定数を増員し、人員を確保すること。
- 2 沖縄県立中部病院の泌尿器科及び腎臓内科の医師の休日を確保すること。
- 3 沖縄県立中部病院の施設を整備し、ロボット支援手術を導入すること。
- 4 沖縄県立中部病院の機能強化に必要な財源を確保すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年3月25日

沖縄県中頭郡北谷町議会

宛先 沖縄県知事